

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.41 ◇◆

2012年2月1日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見や感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
  - ・「被害と加害を防ぐ家族と少年のサポート・システムの構築」プロジェクト関係者セミナー 参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEB サイト更新情報
  - ・国の取組み情報
  - ・イベント情報
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEB サイトアクセスランキング  
今月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード  
保護司

◆◆◆◆

東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。

新年が始まり、早いもので1カ月が過ぎました。今年も「犯罪からの子どもの安全」メールマガジンをどうぞよろしく願いいたします。

本領域も、残り8カ月となりました。進行中のプロジェクトも、徐々に具体的な成果が見えつつあります。また、終了したプロジェクトにおいても、成果が社会で活用されるように、様々な検討やアクションがなされています。領域としても、皆さまに成果を分かりやすくお伝えできるよう、一層、努めて参ります。

早速ですが、今回のレポートは、「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトが1月26日に開催したセミナーについてです。特に、発達障害などを抱える子どもは虐待等の被害を受けやすく、その家族も含めた支援について研究を進めています。キーワードでも、地域での支援に重要な保護司について紹介していますので、合わせて是非、ご覧ください。

虐待被害から子どもを守る取組みについては、ここ数年、様々な動きがありますが、今年もすでに、いくつか報道がなされています。

まず、厚生労働省から、虐待や死別などの理由から親元を離れて暮らす子どもへの施設職員や里親らによる虐待事例や対応状況について、平成22年度における全国の集計結果が公表されました。虐待が認められたものは39件、103人で、調査が開始された平成21年度（59件、120人）よりも少なくなっていますが、実数は更に多い可能性もあります。

平成22年度における被措置児童等虐待への各都道府県市の対応状況について  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000202we-att/2r9852000002030p.pdf>

このような状況の一つの改善策として、社会的擁護の施設のうち、乳児院、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設については、第三者による評価を3年毎に1回以上受け、結果を公表することが、昨年9月の児童福祉施設最低基準の改正によって決定しました。今年4月1日施行を前に評価基準のガイドラインの見直しに向けた検討が進められています。

また、東京都の審議会では、前号でも取り上げた、昨年8月に都内で里子の児童が死亡し里母が逮捕された事件を検証し、再発・未然防止策をまとめ、知事へ提言しました。

報告書では、今回の事例が起きた背景の一因として、保育所や保健機関、医療機関が把握していた里子の傷や怪我などの気がかりな情報について、児童相談所が把握する仕組みがなかったことや、医療機関が虐待を疑う視点が十分でなかったこと等を指摘。

児童相談所と関係機関の連携のための定期訪問と情報交換の実施や、医療機関には、院内虐待対策委員会の設置しスタッフ1人ひとりが虐待への認識を高めること等を求めています。これら、「多機関連携」や「未然予防」は、領域の活動の中でも何度も登場するキーワードです。

児童虐待死亡ゼロを目指した支援のあり方について 提言（里親事例 中間まとめ）  
～平成23年度東京都児童福祉審議会児童虐待死亡事例等検証部会報告書～  
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/KONDAN/2012/01/40m1h300.htm>

被措置児童への虐待を防ぐための取組みをはじめ、領域外の動きについても、皆さまに可能な限りお知らせしていきたいと思えます。

それでは、最後までお楽しみください。

---

## 1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

---

領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。  
まずは、プロジェクト主催のイベントのご案内から。

2月19日に、「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトでは、公開シンポジウム、『地域「子ども安全」活動の評価と改善』を開催します。ロンドン大学ジル・ダンドー犯罪科学研究所からリチャード・ウォートレイ氏をゲストとしてお招きし、地域安全活動をどのように評価するか、地域「子どもの安全」活動の意義等について、意見交換が行われる予定です。皆さま、是非、ご参加下さい。

シンポジウムのご案内。お申込みはこちらから。  
<http://kodomo-anzen.org/activities/activitylist/558/>

「犯罪からの子どもの安全を目指した e-learning システムの開発」プロジェクトでは、1月23日に平成23年度第4回実施者会議を開催しました。安全教育に力を注ぐ大阪大学附属池田小学校での実証実験を踏まえ、公立の一般校で実証実験を実施し、その様子について報告されました。各校、環境や要望はさまざま。ニーズや課題をどう拾い上げ、e-learning システムに反映させていくか、成果の社会実装に向けて、また一つ難しい課題に向き合っています。

「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトでは、1月26日に名古屋で公開セミナーを実施しました。当日の詳細はレポートにてお伝えします。

1月30日、31日の2日間にわたり、社会技術研究開発センターの評価委員会とプロジェクトによる意見交換会が開催されました。今回は、「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」、「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」、「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」の3プロジェクトが報告を行いました。残り半年余り。終了後には、委員会による事後評価が待っています。委員会の指摘を踏まえ、プロジェクトだけでなく領域としても、社会に役立つ成果創出を目指して一層、努力していきたいと思えます。

---

## 2. 犯罪からの子どもの安全レポート

---

- 「被害と加害を防ぐ家族と少年のサポート・システムの構築」プロジェクト  
関係者セミナー 参加レポート  
2012年1月26日 愛知県産業労働センター（愛知県名古屋市）

「犯罪からの子どもの安全」を考える時、子どもたちを「被害から守る」ことが重要です。その一方で、子ども本人が「加害を行うリスクから守る」ことも大切な視点となります。

中でも、発達障害・知的障害といった生物学的脆弱性をもつ子どもは、

コミュニケーションの面ですれ違いが起きやすいことなどから、成長過程において、その子に合わない子育てや教育的対応がなされたり、虐待やいじめ等の被害を受けやすく、こうした背景から、非行や触法リスクが高まるのが、これまでの研究から指摘されています。しかし、こうした知見を加害予防や再犯予防に活用していく取り組み、サポート体制は十分ではないとのこと。

本プロジェクトでは、そんな子どもたちの被害を予防し、非行や犯罪、再犯を予防するサポート・システムの構築を目指しています。プロジェクトでは、実際に非行・犯罪を行った少年の背景をアセスメントし、実態に基づき、社会への適応力を高めるためにどのようなサポートが効果的か、子ども向け・支援者向けのプログラムを開発し、その効果検証を行っています。

今回のセミナーでは、中間報告が行われました。当事者・専門家・行政など様々な方が来場。時折、雪がちらつく寒さの中、遠方からの来場者も見受けられ、具体的事例が盛り込まれた研究者からの成果報告に、熱心に耳を傾けていました。

印象的だったのは、医療機関等で実施した発達障害児の非行行為を高めるリスク要因の調査です。発達障害児で非行歴の有（36人）無（139人）両群を比較したところ、年齢、知能等による差はみられませんでした。診断時年齢、虐待の有無では統計的に有意な差がみられ、非行のリスクは、診断時年齢が1年遅れるごとに1.2倍、ネグレクトにより6.3倍、身体的虐待を受けていた場合には3.7倍高まっているという結果が示されました。

つまり、早期診断が重要とのこと。また、学童期後期や青年期まで見逃されてきた子ども達の診断が可能なシステムを構築し、支援につなげることの必要性に加え、特別支援教育をきちんと実施し、適応水準を高めていくことで、非行や犯罪の可能性も相対的に低くなるのではないかと、サポート体制の整備の必要性が指摘されました。

本プロジェクトでは、こうした実態調査を踏まえ、子ども向けサポート・プログラムの開発と検証を行っています。現在、その一環として、相談窓口や公開相談会を開設。既に相談件数は100件を超え、裁判所に資料の提供を行ったケースもあるとのこと。その他にも、支援者向けプログラムとして、保護司さんを対象に発達障害等に関する研修会も実施しています。

このプログラムを開発する過程で、成果があったそうです。それは、相談窓口等を通して、学校等の関係機関と一体となり、継続的支援に繋げることができたこと。現場の職員からは、どう対応したらよいか分からないといった戸惑いの声も聞かれ、専門機関に繋ぐサポートをするなど、クッションの役割ができたそうです。来場者からも「保護者に対して、早期に対応していく必要性をどうしたら伝えられるか」といった同様の声が聞かれました。今後は、安定的な支援システムに向けた体制作りが課題と言えるのではないのでしょうか。

その一方で、研究を進める上での難しさもあるとのこと。その一つにデータ収集が挙げられます。個人情報保護法の制定の他、各学会でも倫理綱領を強化する傾向にあります。今回のように本人にとってナーバスな問題を扱う場合、研究倫理上のハードルが高くなってきているとのこと。本プロジェクトでも、調査対象・方法に細心の注意を払っていることが、今回のセミナーからも伺え

ましたが、研究を進めていく上での苦悩が伝わってきました。

セミナーの冒頭で辻井正次代表は、おっしゃいました。「今日は勉強をしに来たという方もいらっしゃると思いますが、今日の機会を、この簡単ではない問題について、皆さんと一緒に意見交換する場になれば。そしてネットワークを結んでいきたい」と。プロジェクトは取り組みを進めています。

ご興味のある方は、一度こちらを覗いてみて下さい。

プロジェクト紹介ページ

[http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/m\\_tsujii.html](http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/m_tsujii.html)

(領域担当 M・W)

---

### 3. 「犯罪からの子どもの安全」WEB サイト更新情報

---

#### 【更新情報】

#### ●国の取組み

平成 23 年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」の集計表（詳細版）  
（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/index.html>

平成 24 年度「子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」  
指定のための意向調査について（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/youth/bosyu/soudan/bosyu-7.html>

スマートフォンを経由した利用者情報の取扱いに関する WG（第 1 回）  
配布資料等（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_sosiki/kenkyu/riyousya\\_ict/02kiban08\\_03000087.html](http://www.soumu.go.jp/menu_sosiki/kenkyu/riyousya_ict/02kiban08_03000087.html)

第 61 回 “社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～  
作文コンテスト入賞作品の決定について（法務省）

[http://www.moj.go.jp/hogo1/kouseihogoshinkou/hogo03\\_00021.html](http://www.moj.go.jp/hogo1/kouseihogoshinkou/hogo03_00021.html)

法制審議会ハーグ条約（子の返還手続関係）部会会議（第 11 回・第 12 回会議）  
資料等（法務省）

<http://www.moj.go.jp/shingi1/shingi03500013.html>

第 13 回社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会 配布資料等（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000202we.html>

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

● イベント情報

2月4日－5日

特定非営利活動法人 子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク

「第14回子ども虐待防止シンポジウム

子ども虐待初期対応の多機関多職種連携チーム（MDT）」～事故と虐待を見分ける～

山中プロジェクトの代表者及び実施者が発表を行います。

[http://symposium.childfirst.or.jp/n14s\\_info.pdf](http://symposium.childfirst.or.jp/n14s_info.pdf)

2月12日

親&子どものサポートを考える会

「子どもの成長を支えるために～さまざまなサインのとらえかた～」

<http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/files/35b9cea040cddf1d93d79fdab8ed7fe1.pdf>

2月12日

日本小児科学会

「子ども虐待診療研修セミナー

～子ども虐待診療の基本（臓器移植時の対応も含めて）～

[http://www.jpeds.or.jp/saisin/saisin\\_111221.pdf](http://www.jpeds.or.jp/saisin/saisin_111221.pdf)

2月19日

JST 犯罪からの子どもの安全研究開発プロジェクト

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」評価改善グループ、

社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ

「シンポジウム『地域「子ども安全」活動の評価と改善』」

山本プロジェクト 主催のシンポジウムです。代表者及び実施者が発表を行います。

<http://kodomo-anzen.org/activitys/activityslist/558/>

その他のイベントについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>

-----  
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEB サイトアクセスランキング  
-----

【アクセスランキング】

☆1位 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム 予稿集

<http://anzen-kodomo.jp//column/kyoudou/sympo04/yoko.pdf>

2位 プロジェクト関係者インタビュー

毎日が厳しい現実との戦い 少しでも子どもを救いたい

<http://anzen-kodomo.jp/pdf/col18.pdf>

3位 プロジェクト関与者インタビュー

携帯電話、インターネット問題の怖さを子ども見守る親の立場から伝えたい  
[http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad\\_04.pdf](http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad_04.pdf)

-----  
5. 今月のキーワード  
-----

「保護司」

レポートの中でも登場する保護司。新聞報道等で見かけることもある言葉ですが、そもそも保護司とはどのような仕事をしている人たちなのでしょうか。

保護司は、犯罪や非行をした人が地域の中で早期に更生出来るように手助けをし、地域の犯罪・非行の予防を図る、更生保護活動を担う非常勤の国家公務員です。更生保護活動には地域の事情に詳しい民間の人々の協力が必要ということで、法務大臣から委嘱を受けた地域の人が、実質的にはボランティアとして協力しています。

更生保護に関する専門的知識を有する保護観察官（国家公務員）と協力して、主に次のような活動を行います。

1. 保護観察

犯罪や非行をした人と定期的に面接し、遵守事項を守るよう指導すると共に、生活上の助言や就労の援助などを行い、立ち直りを助ける。

2. 生活環境調整

少年院や刑務所に収容されている人が、釈放後スムーズに社会復帰できるよう、帰宅先の調査や引受人との話し合いなどを行い、受入態勢を整える。

3. 犯罪予防活動

犯罪や非行を未然に防ぐために、世論の啓発や地域社会の浄化に努める。  
毎年7月は、「社会を明るくする運動」強調月間として、様々な活動が展開される。

昨年末、保護司に対する補償制度について、新たな動きがありました。これまで、保護観察対象者から保護司自身へ加害行為があった場合、国家公務員災害補償法の適用はありましたが、物的損害を受けた場合や家族への被害についての規定はありませんでした。

そのような中、平成22年には、茨城県で、担当していた少年からの放火により自宅が全焼した保護司が、公的補償が一切受けられなかったという事件も起きています。

こういった背景を受け、法務省は、保護司に対する物的損害やその家族の人的損害まで救済できる新たな制度の導入を決めました。損害保険を利用する、新たな補償制度。法務省の24年度予算案に、関連経費が計上されています。

法務省・保護司ひとくちメモ

[http://www.moj.go.jp/hogo1/kouseihogoshinkou/hogo\\_hogo04-02.html](http://www.moj.go.jp/hogo1/kouseihogoshinkou/hogo_hogo04-02.html)

全国保護司連盟

[http://kouseihogo-net.jp/h3/h3\\_1.php](http://kouseihogo-net.jp/h3/h3_1.php)

\*\*\*\*\*

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

[c-info@anzen-kodomo.jp](mailto:c-info@anzen-kodomo.jp)

■発行日 2012年2月1日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域 WEB サイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEB サイト <http://www.ristex.jp/>

\*\*\*\*\*